

動体検知とRFIDを活用した情報管理システム

動体検知とは、カメラやセンサ等を利用し、動く物体を自動的に検知する技術であり、主に監視カメラやセキュリティシステム等で利用されています。

また、商品の物流管理には、バーコードやQRコードの代替手法として、Radio Frequency Identification（以下、RFID という）があります。RFID のリーダーライタにより非接触で読み書きすることができ、交通系 IC や大手アパレルのセルフレジなど、身近なところで活用されています。

カメラとアンテナを設置したゲートに RF タグを保有した物体が通過する際、画像および RF タグ情報を自動転送・処理するシステムを開発しました。



使用機材

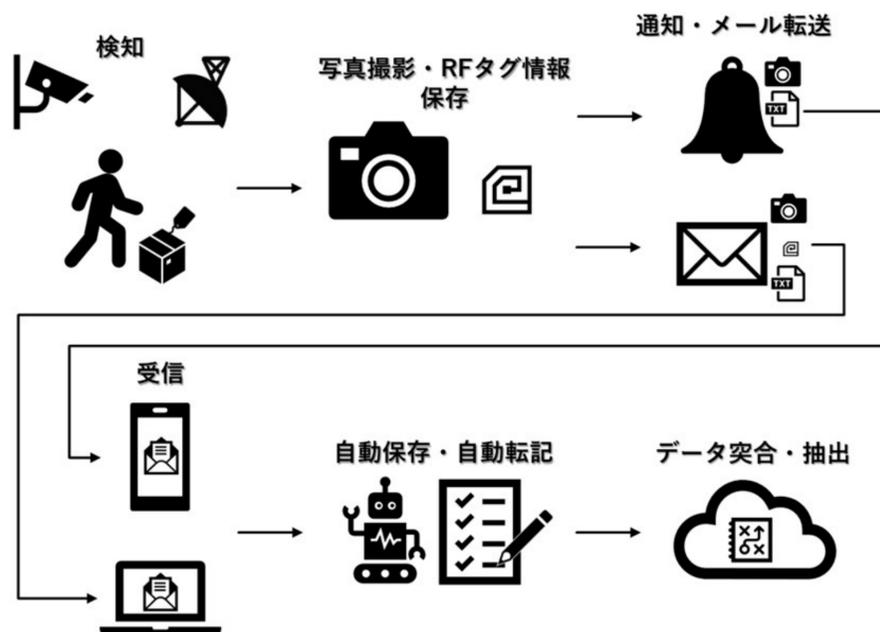


設置状況

情報管理システムの概要と特徴

ドアなどの出入口付近に動体検知用の機材とRFIDリーダーを設置し、通過する作業員やRFタグ付物品の情報を取得・突合することで、作業員の入退室と物品の出入を対応させた管理を容易に行うことができ、倉庫などの物品管理に活用が期待されています。

情報管理システムの動作フロー ▶



- ▶ 動体検知用機材(カメラなど)、RFIDリーダー、アンテナ、プログラム実行用PCで構成される。
- ▶ 動体検知をトリガとして動作し、情報を自動転送・通知。
- ▶ 容易かつ正確な物品・情報管理が可能。
- ▶ 従来のゲート型リーダーと比べて安価かつ小型。
- ▶ 管理対象物及びユーザ使用条件に応じてシステム構成が可能。